

メディアの現場から

メディアを知るためには、メディアを作っている人たちを知ることも重要なポイントです。マスメディアで情報発信をしている人たちの思いや考えを聞いてみました。

BBCびわ湖放送情報技術局長

太田 剛さん

メディアとジェンダーの問題のひとつに「メディアで働く女性が少ない」「意思決定部門に女性がいない」ということがあげられています。確かにびわ湖放送でも、現在取締役クラスは男性ばかりです。これは今後の課題と言えるでしょう。ただ、現場レベルで言えば、女性がかかり増えてきたのも事実です。以前は体力的に厳しいと思われていたカメラマンにも女性が着実に多くなっています。また報道に関しては、「女流」「固有名詞以外には使わない」「女史」「○○さん」「女だてらに」「女の戦い」「女傑」などは使わない」「同一場面では男女の敬称をそろえる」といった、業界全体の統一した方向も出ています。言葉の表面的なことだけではなく、なぜ使ってはいけないのかまで考えることが重要ではないでしょうか。



BBCびわ湖放送情報技術局 報道制作部記者

山田 真純さん



テレビ局への就職志望の動機は「テレビが好き」という単純なものでした。誰でも簡単に情報を得られるメディアとして、伝えられるものも多いのではないかと思ったのです。入社してすぐ報道に配属されて3年になりますが、その間に女性の記者もかなり増えました。記者の仕事は発見の連続です。人との出会いの中で、自分自身様々な意味で成長できた実感しています。仕事をはじめたころに比べると、ジェンダーに対する意識も高くなりました。それを今後の仕事にも活かしていきたいと思っています。

ステップ
3
 メディアを作ってみよう

マスメディアだけが情報発信の手段ではありません。企画力や表現力をみがき、自ら情報発信してみましょう。あなたのメディアが投じた一石が世界中に輪を広げるかもしれません。

方法

ステップ
2
 メディアとコミュニケーション

メディアを変えていくためには、私たちの声を届けることも必要です。放送局は番組審議会を設けることが法律で定められており、視聴者からの声も参考にされています。

方法

放送または掲載の日時と内容に、氏名・連絡先を添えて伝えます。論理的に説明し、批判だけでなく良いと思ったことや提案も伝えるのがコツ。メディアという協力関係を築きましょう！

- 各放送局または新聞社の視聴者・読者係
- 放送番組による人権侵害や、青少年に対する放送のあり方についての意見
- BPO 放送倫理・番組向上機構
- TEL 03-5212-7333
- FAX 03-5212-7330
- http://www.bpo.or.jp/
- 広告についての意見
- JARO 社団法人日本広告審査機構(大阪)
- TEL 06-6344-5581
- TEL 06-6344-5581
- FAX 06-6344-55916
- (電子メール不可)



エフエム滋賀E・Radioパーソナリティ
 中野 栄美子さん

「生まれも育ちも滋賀」ということもあり、エフエム滋賀の開局以来7年間パーソナリティをつとめています。ラジオというのは、

聴取者参加型の番組が多い、双方向性の高いメディアなので、聞いている方の状況や想いを肌で感じることが出来ます。以前は、昼間、ラジオを聞く人は「女性」「主婦」「男性」「ドライバーや営業マン」というイメージがありました。最近では「トラック運転手の女性や」「子育て中の男性」など様々な方が番組にメッセージを寄せてくださいます。携帯メールの普及で番組に参加してくれる層が広がったこともあるでしょうが、ライフスタイルの多様化がすすんで進んで来ているのだと感じます。情報発信する私も、それをきちんと受け止めてコミュニケーションを深めていけるよう、努力しています。



8月22日G-NETしがで開催された「若者ジェンダーフェスタ」では河川恭吾さんをゲストに。

100人に聞きました
ジェンダーとメディア・リテラシーについて

メディアに描かれる女性像・男性像について、TVコマーシャルを中心に調査しました。

「メディアリテラシー」という言葉を知っていますか？

知っている	11%
聞いたことはない	62%
聞いたことあるが意味は知らない	27%

会社に出かけるのは男性で家事をするのが女性というCMをどう思いますか？

気になる	20%
気にならない	61%
以前はよく目についたが最近減ったと思う	19%

「メディア・リテラシー」という言葉については「聞いたことはない」が62%で、「男性は仕事、女性は家庭」というCMを「気になったことはない」と答えた人の割合は61%となっています。毎日繰り返し流される情報がいつのまにか意識の中に入りこみ、おかしいということに気がつかない状況を作り出しているとも考えられ、メディアリテラシーを身につけることが望まれます。

- 調査対象: 県内在住の20代~50代男女100名
- 調査時期: 平成15年12月
- 調査機関: 特定非営利活動法人びわめ〜の企画室

啓発紙をつくってみました。
 ~サテライト・コーディネーター養成セミナーを受講して~
 甲賀町男女共同参画社会を考える会

武田 旦さん

定年退職後、地域で何か役に立てればといろいろ学んでいた時、男女共同参画社会づくりやこのセミナーについて知り、受講しました。お話を聞くだけでなく実際にグループで啓発紙を作る演習はとてもわかりやすく、地元で発行している広報紙づくりに役立っています。自分が新聞や書籍を見る眼も、以前より鋭くなったように感じています。法律上は男女平等ですが、実際には、実現されていない部分も多いと思うので、わたしたち高齢者こそ率先して取り組みたいですね。そのためにも、もっと男性の仲間を増やしたいと考えているところです。



サテライト・コーディネーター養成セミナー
 情報の発信・収集や取り組みを推進できるリーダー育成をめざし、G-NETしがで開催。修了生は、センターと自分たちの地域や企業、団体との架け橋として、連携や協働に取り組む。
 ※2004年度も開講予定



ホームページをグループで作成中
 G-NETしがで開催されたIT活用スキルアップ講座。

◆ミニコミ紙を作る
 自分の思いを文章にして、たくさんの人に読んでもらいたいです。写真・イラスト・データを用いてレイアウトにもひと工夫。

◆インターネットでホームページを作る
 瞬時に世界とつながるのがインターネットの魅力。基本マナーを守ってネットワークをひろげましょう。

毎日何気なく接しているメディア。繰り返し流される情報は、いつのまにか私たちの意識の中に入りこみ、ものの見方や考え方に影響をおよぼしています。

一方的に与えられた情報を無防備に受け取るのではなく、自分で判断すること、そして自らメディアに積極的にかかわってメディアを変えていくことが、情報化社会を生きる私たちに、いま強く求められているのではないのでしょうか。

